

先生がやった（実験キットもあるので）というのがいる。私どもの学校はある程度選抜された子供が来る学校であり、そこでもこのような状況であるから、ちょっとこれはまずいと思っている。新聞か何かでぜひ積極的に取り上げていただいて、何とかならないかと思っている。

○住理事 今の状況は大体第1次大戦と第2次大戦の間の状況に似ていると言われている。戦前の場合も政友会と民政党が対立して国会が機能を果たさなくなり、また、不景気が襲う中で社会のフラストレーションが高まり、そこで陸軍が出てきた。今の日本の状況では陸軍がなく、また、社会が豊かなところがあった、革命騒動が起きていないような気がする。

一番大きな問題は、相当ストレスが社会にかかってくる、合理的な思考法をして現状に耐えてゆくことがつらいことである。現在の不況に論理的に対応しようとすると格差がついてしまったりする。そうすると、「非合理ゆえに我信ず」という昔有名な本があったように、非合理さは大変魅力的に見える。社会が論理的・合理的に考えることに疲れ果ててきているので、サイエンスに関する魅力がどんどん落ちているのだと思う。全体としてサイエンスに関する魅力を支えていく仕組みづくりを、全体の問題として考えていく必要がある。温暖化等の問題に関しては、我々もメディアの人とミーティングを持つ等いろいろなことをしているので、これからも進んでいくと思う。例えば温暖化に関する懐疑論に関しても、明日香（壽川）さんたちの非常によくまとめたホームページが存在するので、印刷してもっと配布しようと考えている。しかし、組織としてそういう意思決定、価値観を伴うような決定をするのは問題があるので個人がやるしかない。そういう点では、学会としては議論の場を提供するというようなフレームワークにならざるを得ないのではないかな。個々の先生が奮励努力をして頑張っていくしかないように思う。

○小池 私も地元の本屋に行ったらほとんどが温暖化は間違いだという本だった。それはそのほうが何となく分かりやすいためではないか。これに対して気象学会は何もしないでいいか、というとそうではなく、学会のマジョリティーが温暖化は実際に起こりつつあると思えば、学会として行動したほうがよいと思う。個人が対応しても、ああいう本は出てくる。日本の場合には、こういう問題では学会とか東大とか権威が大事だと思う。気象学会と言うのはそれなりの権威はあると

思う。ここまでくると気象学会としては奮起しないと負けてしまうのではないかな。

○新野 正しい知識を伝えることは非常に重要だと思うので、そういう知識を整理したものや提言を、気象学会としてはきちんと発信していきたい。

○畠山 これも今の日本の問題だが、以前は教育というと、文科省が国の指導などによって統制できたが、今は地方分権で、全然そういう統制がきかない。統制がきかないのが悪い方向に出ている、例えば東京都等でも教員の研修センターはあるが、昔の東京都教育研究所のようなきちんとサイエンスを教えるところがなくなってしまった。教師塾とか指導法をどうするか、生徒の心をつかんでとか、そういうことばかりをやるようになってしまい、専門的なこと、最先端のこと、次の教科書の改訂につながっていくようなことを勉強しよう、考えようという場がもうなくなっている。東京都も含めて各県の教育委員会がタコつぼに入ったような状況になっていて、それに対して日本気象学会だけではなく、いろんな学協会がタコつぼから引きずり出す活動をしていくことが大事ではないかと思う。

特に東京都などは内向きで、私が地球惑星科学連合の役員をやることができるのも、私の職場はやってもいいと言われているからであって、東京都やいろいろな県立の先生は一切できない。

○佐藤常任理事 今度の指導要領の改訂で地学の教科書の執筆を頼まれているが、努力しても報われないのかとすごく暗くなってしまう。地学は私たちが高校で習ったときも余り魅力を感じなかった。今考えてみると、地学あるいは気象という物理を使うので、物理のバックグラウンドがないとおもしろさがわからないという部分があると思う。もっと以前には地学は物理の中に含まれていたという話も聞いている。地学という科目がある限り、気象も海洋も地震も廃れていくことを止められないかと思うと、地学という科目そのものを見直す必要があるという議論もしている。地学の御専門ということで何か議論されているか。

○畠山 科目としての地学をどうするかというのは時々議論が出てくることもある。ただし、今の高校でいうと、センター試験がある限り地学は文系の生徒にとってとりやすいという状況があって、消えることはない。ただ、地学としてのサイエンスの中で地球科学等をどう扱っていくかというのは、我々の中でも地学という名前が悪いという先生もいるし、やはり枠組み